



# 森ボラ 通信

第111号 2011年8月20日発行  
NPO法人北海道森林ボランティア協会

URL <http://www.geocities.jp/hokkaidoforest/>  
札幌市豊平区平岸1条1丁目9-6ラルズビル3F

Tel.(fax.): (011) 816 - 7010

E-mail: hshinrinv2002@nifty.com

## ■ トピックス

### ◆ どんぐりの播種

従来、当協会では苗木を植樹してきたが、往々にして自然萌芽の方が植樹苗より生長が良いのを目にしていた。そこで、昨年10月7～8日、CGCの森並びにコンサ百年の森でミズナラ、クリ、オニグルミの果実（どんぐりなど）の播種を試みた。

今年5月22日の時点ではまだ発芽はしていなかったが、1ヵ月後の6月21日には発芽・生長しているのが確認できた。

今後、生長を見比べる必要はあるが、経済的で効率よく大規模撈乱地を逸早く環境林に復興させるよい手段



となるだろう。

これら樹木の果実（どんぐりなど）は大きく採種が容易で、かつ典型的な陽樹で撈乱地に逸早く進出し、若木の生長がとても早い特徴を有しているが、一方で果実の散布は野ネズミ、リス、鳥類に頼り、一部食べ忘れて残った果実が発芽・生長しているだけで広範囲をカバーするには非常に効率は悪い欠点を有している。

そこで人手で効率よく散布（播種）することにより自然萌芽の欠点を補完できると考える。

特にミズナラは森の母親とも言われ、非常に早熟で10年前後でどんぐりを付け、そのどんぐりは多くの動物の生息に欠かせないものである。

CGCの森ではまだリスの生息を確認していないが、我々の世代中にリスなどの小動物も生息する生物多様性のある環境林とならんことを願う。

追記、最後の写真は山鳥の雛です。親鳥はどこかでやきもき我々を監視していたと思うが、雛はじっと動かさず恐怖に耐えて健気であった。

逆の立場で、もし我々が熊と出合ったとしたらこのような冷静な行動が取れるであろうか???. (記・和田)

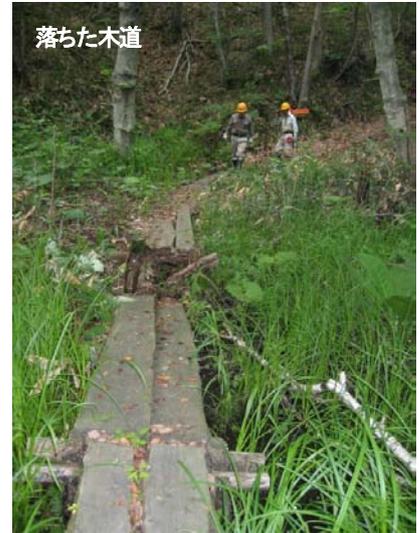


◆ 活動報告：木道整備 =緑の募金交付金ローソン支援事業活動=

澄川都市環境林は真ん中を北に向かって精進川が流れており、豊に森林動物植物を育んでいます。また夏の活動でこの川を渡るときは札幌市内より2℃は涼しいと感じられ、人にとっても恵みを受けています。

記録をみると2006年9月着工となっておりもう5年になりますか、現在は遊歩道4箇所にも木道をかけています。

間伐材を利用して作っていますが、寿命が短いのは分かっているながら防腐剤は塗っていません。もともと目的がホタルなど水性動物の保護と下流域への配慮のためですから。木道の上に雪が積もって足を滑らして落ちた人も何人かおり、また間伐材の搬出にリヤカーを使っていることから最新は木道の幅を広くして内寸で1,100mm取っています。(記・酒井)



◆ 活動報告：森林ボランティア ステップ・アップ事業 第2回講習会に参加

7月15日(金)に清田区真栄白旗山で開催された、第2回講習会に当協会から田山、樞棒が参加しました。午前中は室内で「森林環境教育」の意義、プログラムの実施の流れ、企画の手順、事例紹介がありました。午後からは土橋さん所有の「里山モデル林」の現地で環境教育の実践プログラムの内「クリップ探しゲーム」と「森のビンゴゲーム」を体験した。

最後に指導員からレイチェル・カーソン著の『センス・オブ・ワンダー』の紹介があり、幼少時から自然の不思議さ・素晴らしさに触れる事の大切さを教わった。(記・樞棒)

◆ 活動報告：炭焼き作業(7月29~30日)

- 7月29日 7:30 炭焼き釜に着火。
- 9:00 一回目の排気筒移動。(排気口4本⇔給気口4箇所を入れ替え)、4本の排気筒から均等に水蒸気の排出確認。  
※以降20:00まで1時間置きに給排気入れ替え。
- 20:30 排気筒1本から炎が出る。→排気筒1本撤去、給気口3箇所閉鎖。
- 20:50 さらに内部で燃焼が起き排気筒1本撤去。
- 22:45 排気の出が悪いと思われブロアーで空気を送り込んで様子を見る(排気筒3本、給気口2箇所に戻す)。  
翌日0:15まで断続的にブロアー給気を行う。この間に内部で燃焼が起こり一、二度排気筒から炎が出る。
- 7月30日 0:15 排気筒からの排気が透明になり給排気口を砂で塞ぎ釜内への空気の進入防止を行い作業完了とする。(記・大窪)

◆ 万葉集の草木 (2) 「卯の花」

万葉集 (巻第十 1988) に次のような歌があります。

「うぐひすの通ふ垣根の卯の花の憂きことあれや君が来まさぬ」

口語訳すれば「鶯が通ってくる垣根に咲く卯の花の、その『う』ではないけれど、憂えることでもあるのでしょうか。あなたがいらっしやいません。」といったところでしょう。ここでは「卯の花」は同音の「憂」を呼び起こす序詞として使われています。ですから卯の花そのものには意味が無いはずなのですが、それでいて、垣根に小さな白い花がいっぱい咲く初夏の情景が目には浮かび、「卯の花には鶯が通ってくるのに、あなたは私のところに来ない」という対比も感じられて、味わい深い舞台装置になってはいないでしょうか。出典未詳のこの歌は万葉時代後期には既に古歌として親しまれていたらしく、巻第八(1501)に小治田朝臣広耳こはりだのあそみひろみみによって宴の席で詠まれたらしい類歌「ほととぎす鳴く峰の上の卯の花の憂きことあれや君が来まさぬ」があります。



初夏の季語「卯の花」は、茎の内部が中空(スポンジ状)のため別名「空木」。「〇〇ウツギ」という名前の植物はアジサイ科<sup>(\*)</sup>とスイカズラ科に多いのですが、ただ「ウツギ」といえば、ノリウツギ、バイカウツギとともにアジサイ科です。この科の「〇〇ウツギ」たちは、初夏から初秋にかけて、白い花を咲かせてくれます。「卯の花」といえば、お豆腐を作る過程で出る「おから」を鶏肉や根菜と一緒に炒り煮にしたお馴染みのお惣菜の呼び名でもありますね。そんなところから、古くから愛でられていつもハレよりはケ、派手さよりは慎ましやかな可愛らしさのイメージがある花でした。ところが、北海道に来て満開に咲きこぼれる様子を初めて間近に見たところ、意外にも華やかで、こんな形の簪かんざしがあつたら浴衣に合わせてちょっと着けてみたい、などと思ったのを覚えています。

北海道では6月から7月にかけて咲く花。札幌近辺では自生はしていませんが、公園などで出会えることがあります。

[\*] 図鑑などで昔から馴染み深い新エングラ体系ではユキノシタ科になっています。画像は、会員高野さんの水彩画作品から使わせていただきました。

◆ 炭焼きの傍らで鹿肉の燻製(7月29日)

鹿肉には「もみじ」という別名がある。これは百人一首にある猿丸太夫の歌「奥山にもみじ踏み分け 鳴く鹿の 声きくときぞ 秋は悲しき」から出たものと云われる。肉食を禁止されていた僧侶などが隠語として用いたらしく、鹿肉の鍋物をもみじ鍋という。今回、「鹿肉を食おう」運動の一環で市山事務局長が調達した鹿肉を燻製と焼肉で炭焼きの労をねぎらった。

事前に仕込んだ燻製は温燻法(40~80℃)で、澄川では事前にソミュール液漬したものを衛生的安全性を考慮して熱燻法(80~120℃)を採用して燻煙。生肉は焼肉で食した。燻製はいずれも燻煙のし過ぎで、ジューシーさに欠けたが(特に卯・ホタテ)美味しい鹿肉であった。次回はチーズ・魚類を加え、岩塩漬けでベーコンやローズの本格的燻煙を目指したい。高1.5mほどの燻煙器も準備して、鹿肉のジューシーな燻製に挑戦しようではありませんか。 >> 鹿肉を大いに食べよう << (記・西野憐)



## ■ 今月の幹事会

出席者：市山・荻田・樫棒・酒井・高野・津金・釣井・西野(梯)・矢澤・和田

審議および決定事項

- 1 9月スケジュール
- 2 “緑の募金”『ローソン支援事業』の対応
- 3 道民森づくりネットワークの集い2011…出展検討
- 4 委員会報告 広報委員会（HP、パンフレット） 業務委員会（作業計画）  
助成委員会（花王） 研修・企画（幌南小、研修旅行）
- 5 札幌市環境林の2011年度事業計画申請の件
- 6 池上学園社会生活科…澄川癒しの森野外学習体験の対応
- 7 札幌大学構内原生林の情報提供
- 8 その他 富士ゼロックス寄付金。CGC 第二の森（仮称）の状況。第二回理事会の対応  
2011年度「森づくり活動コーディネーター養成通信研修」の対応。

## ■ 活動履歴

活動日	行事・活動地	参加数	活動内容
7月20日(水)	澄川	13	木工・薪作り
7月21日(木)	りんご園	中止	摘果作業終了
7月22日(金)	りんご園	中止	摘果作業終了
7月23日(土)	澄川	13	炭焼き準備
7月26日(火)	澄川	15	間伐材整理
7月29日(金)	澄川	14	セミナー（チェーンソー伝達研修）炭焼き、
7月30日(土)	澄川	8	炭焼き
8月3日(水)	澄川	11	炭窯出し・トイレ作り
8月5日(金)	野幌	10	下草刈り
8月8日(月)	ラルズビル／大通公園	10/13	幹事会／納涼会
8月10日(水)	有明／澄川／支笏湖	6/3/2	下草刈り／看板作り／CGC 第二の森調査
8月17日(水)	澄川	12	木工・看板作り

### ◆ ホームページ訪問者がまもなく7万人

現在の訪問者ペースで行くと、ボラ通8月号がお手元に届く頃には北海道森林ボランティア協会のホームページ訪問者数は7万人を越えます。ご協力ありがとうございます。

2003.11.6開局ですから間もなく8年目ですが最近の殆どどの会員はHP 経由にて入会されます。また「森林ボランティア」で検索すると26万件ありその中で2番目に人気のHP となっています。「継続は力なり」といいますが、来年は10周年となりますのでますますのご支援をお願い申し上げます。

NPO 法人北海道森林ボランティア協会  
代表幹事 酒井 和彦